

8 *Enterococcus cecorum* を原因とするブロイラーの化膿性脊椎炎

西部家畜保健衛生所

○福岡 恒

中部家畜保健衛生所

大岩本拓也・遠藤泰治

Enterococcus cecorum (EC) は腸球菌の一種であり、鶏の腸内細菌叢に存在している。腸内細菌叢の株とは異なる病原性株が肉用鶏における敗血症や化膿性脊椎炎等による運動障害の原因と考えられている。海外では EC 感染の罹病率が増加傾向で、近年国内でも EC 感染による脚弱が発生している。今回、脚弱を示す個体が管内の肉用養鶏場で増加し、EC を原因とする化膿性脊椎炎と診断されたので報告する。

1 発生状況

2023 年 4 月、複数の肉用養鶏場において 14～40 日齢の脚弱淘汰鶏が増加した。その後、脚弱の発生は 22 農場まで波及し、淘汰が多い鶏舎の淘汰率は 12%に達した。2023 年 7 月～11 月、経営者が異なる 3 農場（A 農場 23～37 日齢、B 農場 37 日齢、C 農場 16 日齢）で病性鑑定を実施した。

2 材料及び方法

A, C 農場において剖検後、病理学的検査、細菌学的検査及びウイルス学的検査、B 農場では剖検、細菌学的検査を定法に従い実施した。分離された EC について一濃度ディスク法を用いて薬剤感受性試験を実施した。農研機構動物衛生研究部門でパルスフィールドゲル電気泳動 (PFGE) 解析を実施し、分離株の PFGE 型を比較した。

3 検査成績

剖検では A, B 農場で発育不良、心膜炎、第六胸椎付近の椎体膿瘍、化膿性関節炎等が認められ、C 農場では著変は認められなかった。病理組織学的検査では A 農場で化膿性心外膜炎、化膿性脊椎炎等、C 農場で化膿性腱鞘炎等が認められた。細菌学的検査では、A 農場で主要臓器、腓腹筋腱、B 農場で脊椎病変部、心臓等、C 農場で腎臓から EC が分離された。分離された EC はいずれの株もアンピシリンに対して感受性を示した。PFGE 解析では A, C 農場由来株と B 農場由来株の間で異なるパターンを示した。ウイルス学的検査では脚弱に関与するウイルスは検出されなかった。

4 まとめ及び疾病への対応

以上の結果から、A 農場で脊椎膿瘍、EC 感染症（敗血症）、B 農場で EC を原因とする化膿性脊椎炎、C 農場で細菌感染による脚弱と診断された。肉用養鶏場に疾病の説明や飼養衛生管理及び薬剤適正使用の指導により早期発見、早期治療が農場に浸透、治療効果が認められ、脚弱等の発生は減少傾向にある。PFGE 解析の結果、A, C 農場間に疫学的な関連性が示唆されたが、EC の発症素因は不明な点が多く、発生原因や農場への侵入経路は特定できなかった。今後も安全な畜産物供給のため、衛生指導を継続するとともに発生症例データを蓄積し、発生要因解明の一助に繋げたい。